

とよおか



農香だより

No.54
2023.

3



- 農業委員活動3年間を振り返って 2P~3P
- 頑張ってます!農地利用最適化推進活動 4P
- 丹波市農業委員会との委員活動事例報告会 5P
- きばっとなる人らあ 6P

農業委員として この3年間の活動を振り返って

コロナ禍における
三年間を振り返って

豊岡市農業委員会会長

大原博幸



私達の任期は、コロナウイルスによるパンデミックが、世界を震撼させていた三年前、やる気と不安が入り混じる中でスタートしました。

農地法の審議、農地パトロール、意見書の提出、人・農地プランへの取り組み等、多くの業務をこなしてきましたが、感染対策を実施しながらの業務遂行は、貴重な経験となりました。あらためて関係の皆さんのご協力を感謝いたします。

ところで国においては、人と農地等に関する施策が見直されましたが、その中で人・農地プランは、地域計画として、全集落で作成することが法定化されました。この地域計画の作成には農業委員会の

地域農業の課題解決に 向けて

会長職務代理者兼
農地対策委員長

原清美



豊岡市農業委員会の任務として、農地法の許可・決定等、農業者

年金への加入促進、農政への意見具申、農地パトロール、食農教育の推進、遊休農地の解消など、いずれも重要課題のなか、浅学非才な私が重責を終えることが出来ましたことは、これもひとえに委員各位のご協力のお陰と感謝を申し上げます。

中でも、「豊岡うまいもんカルタ」の制作には多くの皆様にご協力いただき、完成できましたことは大変感慨深いものがあります。豊岡の未来を背負う子供たちに食の大切さと農業の理解者を一人でも多く広げられるよう、機会あるごとに披露・活用することが課題と考えております。

また、農地パトロールを



豊岡市長へ意見書提出

役割が重要となっており、農地集積の目標地図作成が、農業委員会の業務となりました。改めて農業委員会への期待の大きさを感じています。

終わりに、豊岡市は、農業ビジョン「豊岡・グッドローカル・農業」の実現に取り組んでいます。実現のためには、優良農地の保全、確保等、農業委員会の活動が重要となります。ウイズコロナの時代を前向きに捉え、農業委員会活動をさらに活発化し、ビジョン実現に寄与することを祈念してあいさつとします。



豊岡うまいもんカルタ

行うたびに遊休農地が増えていく様を見るにつけて、今後どのように農地を守っていくのか、地域住民が当事者となり話し合いを進めていっていただきながら、良い方向が見出せたらと思います。

終わりになりましたが、豊岡市の農業が目指しているコウノトリとの共生社会の更なる発展に繋げ、持続的な農業生産の促進が図れますよう地域の皆さまと豊岡市農業委員会が手を携えて活動を展開していければと思います。

農地利用の最適化に向けて

会長職務代理者兼

農地利用最適化推進委員長

村田 憲夫



農地の売買、転用、農地改良等申請の審議や地域の人の相談相手として

活動して参りました。

また、農地利用の最適化と遊休農地の解消に向け、農業者の話に耳を傾け、農会長会や農政の説明会、講習会にも率先して参加をし、その活動の中でいただいた農業者の声をとりまとめ、その声が農政に反映するよう取り組んできました。

委員として、地域内を回り、農地が農地として機能しているか、管理されているか調査し、地域に耕作放棄地候補が増える中で、地域の「守るべき農地」のため、遊休農地の発生防止と解消に向け活動を行ってきました。農業委員、推進委員の協力の下、地域の農地の現状がどうなっているかの把握はできつつあり、次期の委員に繋げて参ります。

昨今は、若手農業者の意見を聞

く機会も増えてきました。今年度は、地域部会で意見交換会が実施され、就農して間もない農業者の生の声を聴き、微力ながら相談に乗ることができたことは、とても意義深いことであつたと思えます。また毎年、小学校での食農教育を実施してきました。児童の皆さんに田んぼの保全活動を農家の人と一緒に農業委員、推進委員も行っていることをお話ししたときの子どもの声やキラキラした眼差しが今でも忘れられません。

最後になりましたが、この三年間、委員の皆様のご協力の下、活動できた事と、地域の皆様方のご協力に感謝し御礼申し上げます。



若手農業者との意見交換会

農地法改正に伴う下限面積要件が廃止になります。

許可要件の一つに、農地取得後に経営する面積の下限面積（40アール）が定められていましたが、令和5年4月1日から、下限面積要件が廃止されることとなりました。

なお、農地の権利取得に必要なそのほかの要件（全部効率利用、農作業常時従事、地域調和等）は、継続となりますのでご注意ください。

農地法許可等の申請受付日

月	申請受付日
4月	3日(月)、4日(火)、5日(水)
5月	1日(月)、2日(火)、8日(月)
6月	1日(木)、2日(金)、5日(月)
7月	3日(月)、4日(火)、5日(水)
8月	1日(火)、2日(水)、3日(木)、4日(金)、7日(月)
9月	1日(金)、4日(月)、5日(火)
10月	2日(月)、3日(火)、4日(水)、5日(木)
11月	1日(水)、2日(木)、6日(月)
12月	1日(金)、4日(月)、5日(火)

豊岡自動車教習所 貴方の仕事の幅を『お得』に広げるチャンス!

春の免許取得キャンペーン

4月スタート!!

対象免許

- 大型 ○中型 ○準中型 ○けん引
- 大型特殊 ○普通二種

トラクターを運転するなら取得必須

「大型特殊免許」を是非この機会に! /



※但し、自動車等の種類によっては「小型特殊免許」で運転可能です。

人にやさしく 地球にやさしい 運転マナー

豊岡自動車教習所

普通・準中型・中型・大型・普通二種
大型二種・けん引・大特・普通二種

ご予約・お問合せは

TEL.0796-22-6321

兵庫県豊岡市日撫312

- 営業時間 9:00-20:20
【土・日・祝...17:50まで】
- 休/金曜日
(2月・3月は日曜日が休み)



ホームページ

国府地区
(日高地域)



日高東地区の中で国府地区を担当しています。当地区は日高の他地区と比べ比較的遊休農地も少ないように見受けられますが、農業従事者の不足、高齢化、有害鳥獣など問題は他地区と同様に山積しています。今から3年後、5年後のプランを立て地域の皆様と考える必要があると思います。

このごろ、農地パトロールを行う



国府平野



和田推進委員
国府地区



中村推進委員
八代地区



平野農業委員
国府・八代地区



ビオトープ

八代地区を担当していますが当地

八代地区
(日高地域)



てよく目に付くのが側溝や田圃に瓶、缶、ゴミ袋等がポイ捨てされていて、マナーの悪さに呆れると共に危険も感じています。
農地利用最適化推進委員となり、遊休農地の確認、農地のパトロールなど日々活動をしています。
(国府地区推進委員 和田 美好)

区も御多分にもれず高齢化、後継者問題に悩まされていて遊休農地が増え、特に中山間地の田圃には顕著に現れています。
そんな中で八代保育園に隣接する遊休農地をビオトープとして利用されています。メダカ、カエル、ドジョウ、タニシ、タガメ等の水生生物が生息し蓮も植えられ、7月頃には綺麗な花を咲かせ、園児達の目を楽しませています。また暖かくなると園児達がビオトープの中に入って、色々な水生生物を網で掬って水槽に採り勉強会が開かれます。たまにコウノトリも飛来し、園児達を喜ばせてくれます。

(八代地区推進委員 中村 勝美)

日高地区
(日高地域)



6年前、先輩委員と農地パトロールに同行しました。各集落間に多少の差があるものの、概ね集落より山沿いの用水路や農道及び周囲の栽培状況や未整備田など栽培環境の悪い

場所に遊休農地が多く認められました。その後、アンケートや聞き取り調査により有効利用や耕作依頼など実施するも、山間部はますます荒廃し、最近では平坦地や幹線道路沿いまで散見されるようになりました。
年々増加する遊休農地は農家や集落、地域により、それぞれ複雑に絡み合った多種多様の要因があり、一つや二つの対策で解決するとは思えません。ここまでひどくなつた反省も緊迫感もあります。農家も地域もいま一度振り返ってみる時期が来ているかも知れません。農家や地域で問題の解決ができればよいが...

(日高地区推進委員 安岡 平夫)



安岡推進委員
日高地区



宮岡農業委員
日高地区



遊休農地

視察研修報告「丹波市農業委員会」 委員活動を報告しました

今年度、11月29日に委員27名の参加により視察研修を実施しました。

研修先は丹波市農業委員会、丹波ひかみ農業協同組合でした。視察の目的は他の農業委員会の委員活動報告及び意見交換、また土地利用型農業について学び委員の研鑽を深めることです。

丹波市農業委員会との活動事例の報告会では丹波市から3名、当委員会から2名の委員から日頃の取り組みを報告して頂き、双方活発な意見交換を行いました。



丹波市農業委員会との活動事例報告会の様子

豊岡市農業委員会からの活動報告内容をご紹介します。

活動報告①

「豊岡市日高町西気地区の 取り組み」

農地利用最適化推進委員
和藤 達也

日高町西気地区の概要。区数：7区、人口：約700人、高齢化率：43.1%、耕地面積：約162ヘクタール、水稲作付面積：76ヘクタール、担い手農家：3名

西気地区の主な課題は次のとおり。①人口減少②人材の不足③不在地主農地の増加の懸念④獣害⑤農地中間管理事業の限界⑥農業用施設の老朽化⑦農地に携わる人の減少、農地保全に関する住民意識の希薄化

西気地区では今後も進むであろう耕作者の減少や遊休農地の増加を懸念し、危機管理を地区全体で共有して農地利用調整の検討を進めようと準備しています。地域内の農会長の会合での「いきいき

農地バンク方式」の検討や今後の農地管理について農家の意向調査や話し合いが行われています。

現在、水稲作付面積15ヘクタールを地区内の担い手農家が担っています。

持続可能な地域営農のために担い手を主体とした農地の集積、集約化を進め、効率的な農地利用が出来るよう地区住民が協力して取り組む必要があります。

今後も推進委員として地域の営農が継続していけるよう努めてまいります。



和藤達也推進委員
(西気地区担当)

活動報告②

「再整備と農事組合法人の両輪で 守る集落の未来」

農地利用最適化推進委員
石原 章二

内町地区の概要。戸数：34戸、農家戸数：30戸、農地面積：約18ヘクタール、高齢化率：41.1%、内町農事組合法人（令和元年10月設立）

昭和40年代後半のほ場整備か

ら約半世紀。少子高齢化の影響もあり、人力に頼った維持管理作業に限界を感じるようになってきました。

そこで、効率よく生産性の高い農業を実現するべく、「農地中間管理機構関連農地整備事業」を利用し、ほ場の大区画化を計画しました。維持管理作業の負担になっている草刈りは、自走式草刈機や大型トラクターに装着する草刈機「ハンマーナイフモア」などを使用し、労力の大幅軽減を目指しています。

内町農事組合法人の組合員でワークショップを開催し、営農組合が10年後も元気に活動できるように様々なアイデアをまとめ農地集積に取り組みました。

現在では「1集落1農場」として集落の全農地を内町農事組合法人へ集積して効率化を図っています。合言葉「心は一つ、力を合わせ、楽しく、仲良く、農地を守り、村繁栄」。今後も集落の農地保全のため活動していきます。



石原章二推進委員
(奈佐地区担当)

「集落の農地はみんなで守る」

天谷営農組合（但東町天谷）



森脇組合長と朝倉さんしょ圃場

但東町合橋地区と福知山市夜久野町を結ぶ県道但東夜久野線沿いに秋に出現する帯状の黄色いドーム菊を目にされたことはありませんか。ここが天谷区で14戸の集落です。

農地は9haが区画整理済ですが10a未満の圃場が多く、高齢化が進み耕作・管理が困難になりつつある中で、「集落内の農地は遊休農地にしたらあかん、みんなで守ろう」と平成26年に全戸が組合員となり「天谷営農組合」が設立されました。

組合は7名の役員が中心となり、朝倉さんしょを4箇所、圃場45aで340本栽培し約200kgを出荷されています。また、小菊を10aに約5,000株、ビニールハウスでストック約3,000株、そば50aなどを栽培し、姫路やJA等に出荷されています。稲作は刈取、乾燥調製と草刈作業のみ受託しているそうです。

組合長の森脇幸夫さんは、「さんしょの収穫量をより増やすために剪定の仕方や施肥量、また菊などの花きは出荷時期に合わせた花の咲かせ方などを試行錯誤しながら行っている。年により気候が異なり自然が相手の農業は難しいがやりがいがある。」と熱く語られました。



開花しはじめたストック

黄色のドーム菊は出荷されてないそうですが、県道からよく見える田に栽培され、通行する人の目を楽しませ癒してくれます。今年も期待しております。（農業委員 大谷 均）

「子ども達の未来のために」

成田 市雄さん（豊岡市森津）

成田市雄さんは「コウノトリ育む農法」によるお米の栽培に長年取り組まれ、無農薬栽培の面積を年々増やしてこられました。売行きは徐々に上がっていき、売る心配が和らいだ頃、「あれ？」と思われたそうです。子ども達に食べてもらいたくて頑張ってきたのに、豊岡で作った無農薬栽培米のほとんどが豊岡の外に出ている。豊岡の子ども達に食べてもらいたい。それなら学校給食にと考えたそうです。



成田市雄さん

しかし、ここで問題になったのは価格でした。「コシヒカリ」では学校給食に使えない単価でした。そのため、収量性と食味を考えた品種を決め、3年間実証栽培された結果、収量は十分あり食味もコシヒカリと食べ比べをしても半数近い人に美味しいと言われた「つきあかり」、これなら学校給食に向いていると思われたそうです。学校給食の試食会では「いつもより甘かった」との児童の声も聞かれ、いよいよ無農薬栽培のお米が学校給食に提供されます。

最後に夢は何ですかと聞いたところ、豊岡市が進める有機農業の生産から消費まで一貫し、住民を巻き込んだ「オーガニックビレッジ」の先進地域作りに協力し、仲間をもっと増やしたいと思えます。コウノトリ野生復帰推進事業の終焉なんだろうなって思っています。ただ、夢が大きすぎて人生の終焉の方が早いかもしれませんけどね！」と笑っておられました。

益々のご活躍をお祈りしたいと思います。

（農業委員 村田 憲夫）



学校給食で試食された無農薬栽培米「つきあかり」

農地の賃借料情報

2022年1月から12月までに利用権が設定(公告)された賃貸借(賃借料が有料)における賃借料水準(10a当たり)は、以下のとおりです。

この金額はあくまで参考です。これを目安に土地の広さ、形状、水利等各種条件を考慮し、賃貸借当事者間で賃借料を決めてください。(近年では使用貸借(賃借料が無料)が多く設定されています。)

2023年2月27日 豊岡市農業委員会

■田(水稻)

地域名	平均額(円/年)	最高額(円/年)	最低額(円/年)	抽出筆数 (賃借料が有料)	使用貸借筆数 (賃借料が無料)
豊岡地域	11,600	17,200	6,000	52	1,009
城崎地域	-	-	-	-	-
竹野地域	6,300	6,300	6,300	8	24
日高地域	7,000	10,000	3,000	50	256
出石地域	5,000	8,000	2,000	70	143
但東地域	6,400	7,000	4,500	6	51
(参考) 全域平均	7,500			186	1,483

【この表の見方】

- 抽出筆数は、標準的な賃借料を算出するため、全賃借料の平均値±70%を超えるものを除いています。
- 賃借料を現物で定めている場合は、60kg当たり12,600円で換算しています。
- 金額は、100円単位に四捨五入しています。
- 参考のために使用貸借(賃借料が無料)の筆数もお知らせします。
- 畑については事例が少ないため算出していません。

国民年金＋農業者年金
老後の備えは
年金積立！
節税対策しながら
老後生活への備えは
十分ですか？

ポイント

1

支払った保険料は
全額社会保険料控除の対象！

ポイント

2

運用益は非課税！
そのほか生涯を通じて様々な税制面での優遇措置
がある！

ポイント

3

農業経営の状況に応じて
保険料を増額し、節税額をアップ！

詳しくは… 農業者年金基金

検索

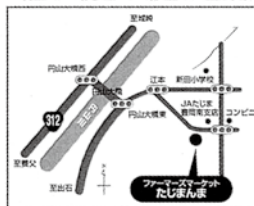
<https://www.nounen.go.jp>



ファーマーズマーケット
たじまんま

豊岡市八社宮490 TEL0796-22-0300
www.ja-tajima.or.jp/tajimanma

定休日：火曜日
(但し、祝日の場合は営業)



JAたじま

表紙について ▶ 菌床シイタケ

シイタケを栽培するには「原木栽培」と「菌床栽培」があります。「原木栽培」とは伐採した天然の木にドリルで穴をあけて、そこに種菌を植え付けて林の中などの自然環境できのこを発生させる栽培方法です。一方、「菌床栽培」はオガクズに米糠などの栄養を混ぜて固めた培地に、種菌を接種して栽培する方法です。原木栽培で収穫できるのは年に1~2回です。菌床栽培は、1年を通して収穫することができます。例えばシイタケの原木栽培では、収穫できるのは春と秋だけのため、収穫時期以外は干しシイタケに加工するしかありません。一方、菌床栽培では、生シイタケを1年中食べることができます。冬の鍋シーズンにはかかせない存在となっていますよね。

シイタケは低カロリーなのに栄養満点！シイタケには、三大旨味成分のひとつであるグアニル酸、食物繊維、ビタミンD、カリウムなどなど栄養たっぷり。メタボリックシンドロームや生活習慣病、がんの予防にも効果があると言われています。おいしいだけでなく、体に良いこと尽くめの健康食材シイタケを食べましょう。
(農業委員 森田 強)



ハウスの中は菌床でいっぱいです。



全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月700円
(送料、消費税込)

*お申し込みは
農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

私達は、間もなく委員の任期満了となります。今期委員として最後の「農委だより」の担当となり、いつもより気合を入れて編集を行うて参りました。今号は左記6人の担当委員で行い、原稿の見直しと校正を重ねて、第54号が出来上がりました。

農業委員、推進委員として、大事な農地の利用の最適化に向けた活動を行い、次世代にバトンを繋ぐのが使命であると感じて、その思いを「農委だより」に寄稿しています。併せて、地域で活動されている方々の紹介も行い、農業者の皆さんの後押しを心掛けています。これからも、地域に根ざした農業委員会として自覚を持ち活動を行いますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、今号をお読みになって気が付かれたことがありましたら、委員または事務局にご一報ください。

(編集委員長 村田 憲夫)



農委だより第54号は私たちが担当しました。
後列左から 瀧下委員、森田委員、宮岡委員
前列左から 平峰委員、村田委員、大谷委員